

朝日新聞 2011(平成23)年10月6日(木) ぶらりミュージアム



県立博物館

佐賀県には鍋島更紗、佐賀錦、鍋島緞通（花毛氈）といった伝統的な染織品があります。最も早く始まったとされる鍋島更紗は、慶長期（1596～1615）に始まり大正期（1912～26）に一時途絶えましたが、秘伝書や見本帳が残っていたため、昭和40年代に鹿島の染色

「木版摺更紗着物・松文」

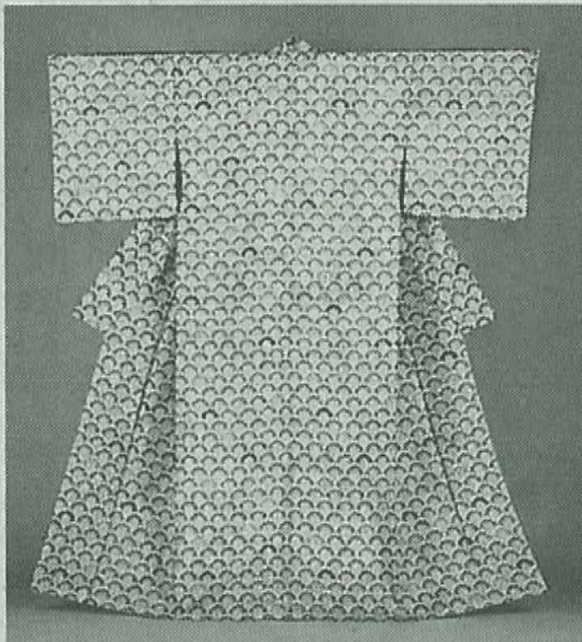
鍋島更紗、佐賀伝統の染織品

家鈴田照次氏が復興しました。

また、佐賀錦は19世紀に鹿島藩で始まったとされ、明治初期にいったん途絶えたものの、それを惜しんだ大隈重信公により復興され今に続いています。

鍋島緞通は、長崎にいた中国人によって元禄期（1688～1704）に技法が伝えられ、佐賀城下の扇町で「扇町毛氈」として始まった日本最古の綿緞通です。テーマ展では、綿花を紡いで布を織る際に使われた木綿機や、糸車などの機織り道具、佐賀錦の織台などの道具類も併せて紹介しています。

（県立博物館 学芸課 川副麻理子）



23 佐賀市城内1の15の
 電話0952・24
 ・3947。バス停
 「博物館前」下車、徒
 歩1分。開館は午前9
 時半～午後6時。休館
 日は月曜。

1978（昭和53）年／鈴田照次作／県立博物館蔵／テーマ展「肥前の染と織」で展示中